

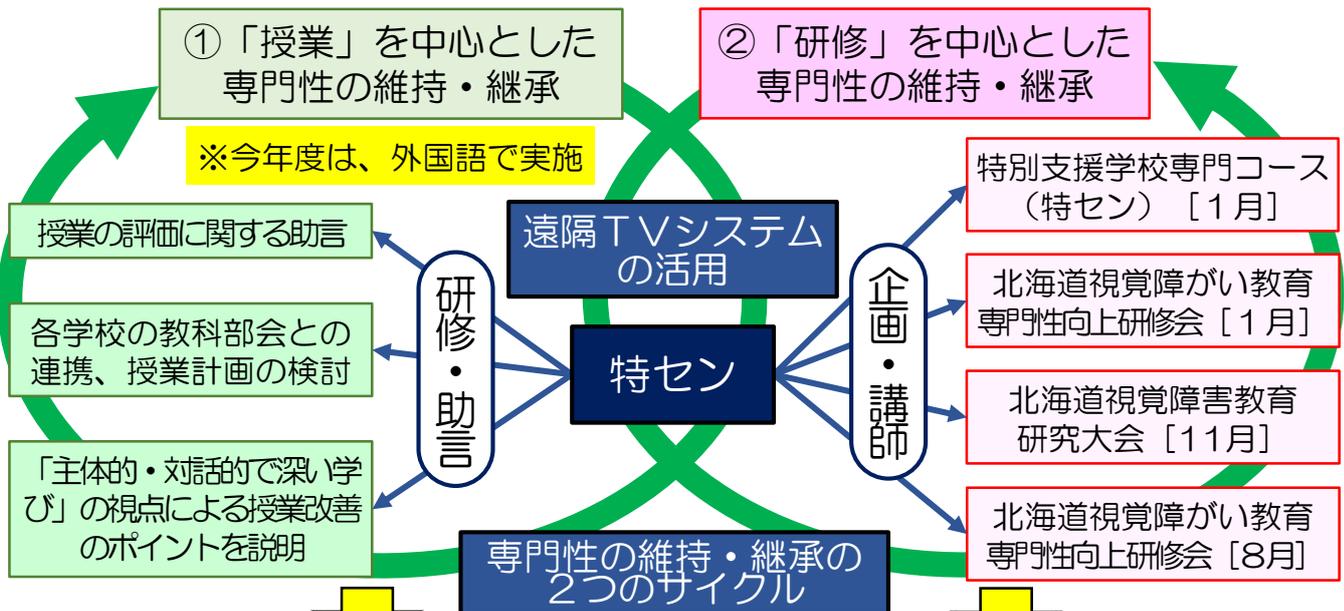
専門性の維持・継承を目指した学校間の連携の在り方に関する研究 ～遠隔授業システムを活用した合同授業及び研修を通して～

現状と課題

北海道の視覚障がい教育の現状と課題
 ①在籍する幼児児童生徒数の減少により
 集団で学び合う機会が減少している。
 ②視覚障がい教育の専門性の維持・継承
 が難しくなっている。
 ③「視覚障がい教育拠点校」としての札
 幌視覚支援学校の機能の充実を図る必要
 がある。

①道内の視覚特別支援学校の教職員の専
 門性の向上
 ②遠隔TVシステムを活用した合同授業、
 子供同士の対話がある授業の展開
 ③「主体的・対話的で深い学び」の視点
 による授業改善
 ④遠隔TVシステムを活用した特別支援
 学校の「授業」及び「研修」の取組

道内の視覚特別支援学校4校に遠隔TVシステムが導入された環境における
専門性の維持・継承に向けた特センの取組



内容・方法

○ 各学校の教諭の声
 「遠隔TVシステムを活用した合同授業を通
 じて子供の理解が深まったと感じた。」

○ 遠隔TVシステムによる受講者の声
 「特セン会場にいるのと同様の臨場感で専
 門的な内容の研修を受けることができた。」

遠隔TVシステムを用いた「授業」や「研修」を通して
 効果的に専門性を維持・継承することができる。

①視覚障がい教育の専門性の向上を図るための取組を効果的に進められることが明らかと
 なった。
 ②勤務校において遠隔TVシステムを活用した研修会への参加が可能となることで、研修
 しやすくなった。
 ③①、②を踏まえ、各教科部会や各学校合同の研修会を、**年間を通して効率的に実施**する
 ことができるようになった。

今後の方向性

○ 遠隔TVシステムによる集団一斉授業において、「児童生徒の問いを顕在化する工
 夫」、「試行錯誤できる題材の設定」及び「時間の確保」、「即時的に楽しめる課題
 設定」等の整理
 ○ 外国語以外の教科における活用の検討
 ○ 次年度の各校の研修計画への位置付け

北海道立特別支援教育センター